

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題・漢文 1題 (漢文は文学部のみ)	試験時間	80分
-----	----------------------------------	------	-----

<p>総括 (ポイント・変化など)</p> <p>一 既知の事柄を予想通りに確認することで満たされる「商品」のありようとは異なり、理解し得ない未知との出会いをもたらして人々を魅了してやまない芸術「作品」のおもしろさを主張した評論文からの出題。平易な表現を用いた文章であり、受験生にとっては読解しやすかったと言える。 設問の数が11問となり、1問増加した。 文学史問題が出題された。</p> <p>二 「私」についての〈私〉の知り方のありようを論じた評論文からの出題。議論の抽象度が高く、受験生にとっては理解が困難であったと思われる。</p>
--

<本文分析>

大問番号	一	二
出典 (作者)	『生き延びるために芸術は必要か』(森村泰昌・評論)	『ことばと世界が変わるとき』(朝倉友海・評論)
頻出度合	・的中等	
分量 前年比較	分量 減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加 約 4000 字 前年度約 4700 字	分量 減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加 約 3300 字 前年度約 4200 字
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
一	評論	問1 問2 問3	記述式 記述式 マーク式	標準 標準 標準	漢字の読み取り「素描 (そびょう)」「奇抜 (きばつ)」、漢字の書き取り「名状 (メイジョウ)」「典型 (テンケイ)」 空欄に適切な語句を補充する問題 空欄の後で、「商品」も「作品」もいずれも「品物」とみなされ、また「商品」と「作品」とが対比されて論じられていることを踏まえる。
		問4	マーク式	標準	空欄に適切な語句を補充する問題 「あったらいいな」という“欲望”や“夢”が実際に「商品」となるという空欄前後の文脈を踏まえる。
		問5	マーク式	標準	脱落した一文を本文に挿入する問題 〈かつては理解しえなかった「ありえへん」という「作品」が、多くの人々が「あったらいいな」と欲する「商品」に変わってしまった〉という挿入文の内容を踏まえて挿入箇所を探す。挿入文の内容が事象の説明となっているため、〈5〉とすると、段落の構成が、「～店みたいになる」という事象説明の後に、「～ということなのでしょう」という筆者の論評、さらにあらためて挿入文による事象説明となって、順序が不適切であると言える。
		問6	記述式	標準	傍線部に関わる内容を本文中から抜き出す問題 (三十字で) 「納得」の内容が、傍線部直前の「エンターテインメントとは、あらかじめわかっていることの再確認である」という部分に該当することを踏まえ、同様の内容が述べられた箇所を「三十字で」探す。
		問7	マーク式	標準	傍線部の理由を説明する問題 傍線部の“おメガネ”が、直前の『「あったらいいな」としての『作品』』であることを踏まえ、「美術館」は、そうした「あったらいいな」ではなく、「ありえへん」という「わからなさ」が常態の場所であることを確認する (4ページ中央)。
		問8	マーク式	やや難	傍線部の内容を説明する問題 傍線部直前の「ここまできたら」の「ここ」の内容が、さらに前の部分の「わからないから余計～ながめてみたくなる」というケースであることを踏まえる。また、傍線部の「信頼関係が <u>できつつある</u> 」という表現に着目し、鑑賞者が、半ば無意識的であれ〈「作品」との信頼関係を築く始まりあるいは途上の段階〉である点も踏まえる。 ただし、本文の主題を踏まえて〈鑑賞者と芸術との間の「信頼関係」を積極的に捉え、「わからなさ」に「むきあうことにおもしろさを感じる〉という3を選択した生徒もいたと思われる。

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
一	評論	問9	マーク式	標準	傍線部の内容を説明する問題 傍線部の「芸術は不親切きわまりない」という内容を捉える。「スフィンクス」についての具体的な記述に惑わされないように気をつける。
		問10	マーク式	標準	本文の内容に合致するものを選ぶ問題 (一つ) 正解6の内容は、4ページ中央あたりの記述に見出される。
		問11	マーク式	標準	文学史問題 (大正時代の文学作品を選ぶ)「城の崎にて (志賀直哉)」
二	評論	問1	マーク式	標準	傍線部の内容を説明する問題 傍線部「内と外とを分けている」と「また自己である」という表現に適切なものを、傍線部の前後の文脈を踏まえて選ぶ。
		問2	マーク式	標準	空欄に適切な語句を補充する問題 空欄の後の「生命の基本的な単位としての細胞」という具体的・物質的なものと対比される内容を選ぶ。
		問3	マーク式	やや難	傍線部の理由を説明する問題 「壁」が物理的存在としてのみならず、さまざまな意味で比喩的にも述べられている傍線部前後の文脈を踏まえ、壁の「物質」性に言及して説明した4が正解となりうる。ただし、前後の文脈を超えて本文全体の主題を踏まえ、さらに傍線部後半の「自他の区別のかなめ」の内容に言及している3も否定しがたい。
		問4	マーク式	標準	傍線部の内容の具体例を選ぶ問題 傍線部の「言えない場面」とは、(私を(私自身が)知ることができる場面)であると理解し、「自分で自分を知ることにもまた実現されてくる」と述べられた第1段落の内容を踏まえる。
		問5	マーク式	標準	本文の内容合致問題 (一つ) 正解6の根拠は、第13段落に見出される。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- 基本的な言葉の知識が問われる問題の出来がきわめて重要である。日頃から漢字、語句の意味内容、文学史などの知識をおろそかにしないで学び、知らない言葉に出会った場合にはまめに辞書を引いて語彙力を養っておこう。
- 評論を中心に様々なジャンルの文章を読み、問題演習を積み重ねておこう。本文全体の趣旨を正確に把握するとともに、部分的な内容を文脈に即して的確に読み取るといった基本的な読解力の養成が必要となる。
- 常に手と目を意識的に用いて本文に根拠を求め、解答の吟味をしっかりと行うようにしよう。

<総括>

出題数	現代文 2 題・古文 1 題・漢文 1 題 (漢文は文学部のみ)	試験時間	80 分
-----	-------------------------------------	------	------

- ・長文が課される本学の特徴通りの出題である。人物関係が錯綜しているので、細部の読解にはやや苦労しただろう。
- ・設問数、総解答数ともに昨年度と同じである。
- ・記述式現代語訳は昨年度からの字数制限(〇〇字以内)が踏襲されている。
- ・文法に関する設問が、今回は空欄補充と敬語の問題となったが、標準レベルだった。

<本文分析>

大問番号	三
出典 (作者)	『堤中納言物語』「ほどほどの懸想」
頻出度合 ・的中等	頻出
分量 前年比較	分量 減少 ・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約 1250 字 (昨年度 1430 字)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
三	作り物語	問1	記述式	標準	現代語訳。㉞「さま変へたまひにけり」㉟「よるづむつかしき」を、それぞれ十二字以内で現代語訳する。㉞は「さま変へたまひ」、㉟は「よるづむつかし」の訳出と「時」の補充がポイント。
		問2	マーク式	標準	空欄補充。助詞を補充する。Aは直前が未然形であることと、「まろが君＝頭中将」を「この宮＝故式部卿の姫君」に「通はしたてまつ」という発言内容に着目する。Bは空欄部分を含む発言内容が姫君への評価であることに着目する。Cは八行四段活用已然形の「のたまへ」、Dはラ行変格活用連体の「はべる」に着目する。
		問3	マーク式	標準	説明。「安げなき」と発言する小舎人童の心情を説明する。先行する「程遙かになれば、思ふままにも参らねば、おろかなると思すらむ」と「うしろめたき心地も添へて」という発言が、小舎人童と女童の関係についてのものであることに着目する。
		問4	マーク式	標準	文法。①「おはします」、②「たてまつら」、③「のたまへ」、④「候ふ」、⑤「はべる」の敬語の種類と敬意の方向が正しいものを選ぶ。③の敬意の方向、④と⑤の敬語の種類の判別がポイント。
		問5	マーク式	標準	説明。頭中将のもとに仕える「男」が送った㉠の和歌と、相手からの返歌㉡の大意を踏まえた説明として正しいものを選ぶ。㉠は「青柳」に女房たちをなぞらえて、男自身を青柳の方に吹く「風」に見立てて「ほのめかさずや」に続けている。対する㉡は「青柳」を男になぞらえて、それが「風＝女の噂」に「さぞみだるらむ」と返している。㉡の「らむ」の用法がポイント。
		問6	マーク式	標準	説明。頭中将が「男」が受け取った返歌に「目とまりて見たまふ」理由を選ぶ。直前の「われも、いかでさるべからむたよりもがな、と思すあたりなれば」がポイント。
		問7	マーク式	標準	説明。頭中将が「いとど世もあぢきなくおぼえたまへど」の理由を選ぶ。前段落の「あはれ、故宮のおはせましかば」という心情がポイント。
		問8	マーク式	標準	内容合致。本文の内容に合致するものを選択肢六つから二つ選ぶ。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・教科書に採録されているような有名作品からの出題も比較的多く、そのような出題の場合には背景知識の有無が合否の境目になる。対策として、教科書・問題集・便覧などを通じて作品全体のあらすじや内容、また主な登場人物などは知っておく必要がある。
- ・その一方で、受験生になじみの薄い稀な出典から出題されることもある。過去問題や問題集を通じて、できるだけ様々な文体の文章に慣れておきたい。
- ・重要古語・古典常識・文学史などの知識問題や文法説明は立命館大学の古文の一つの特徴でもあるので、徹底的に学習しておきたい。
- ・物語や日記の場合には、登場人物の把握、主体判定などをおこないながら丹念に読解するなかで、人物の心情や、場面の細部まで把握する学習が必要である。随筆や歌論などは、話題になっている事柄を把握したうえで、筆者の姿勢や主張を明確にする読解の練習をしておきたい。

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題・漢文 1題 (漢文は文学部のみ)	試験時間	80分
-----	----------------------------------	------	-----

主人を守り、よく仕えた雌の犬と、その犬が産んだ五匹の子犬が成長すると、母犬のために孝行したという話である。昨年度の文章同様読み取りやすい。設問数は昨年と変わらず4問。語の読み、空欄補充、書き下し文、内容合致という問いも昨年度と同様であった。

<本文分析>

大問番号	四
出典 (作者)	清・張潮『虞初新志』
頻出度合 ・的中等	稀
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・ やや増加 ・増加) 269字(昨年度217字)
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
四	小説	問1	記述式	標準	語の読みの問題。「以是(これをもつて)」「且(かつ)」の読み。
		問2	マーク式	標準	空欄補充の問題。5カ所の空欄を含む各文の意味を文脈から読み取り、空欄に「～するかのような」という意味の語が入ると判断する。
		問3	マーク式	やや難	書き下し文の問題。文脈から傍線部の意味を読み取り、文の構造を考えて訓読し、判断する。
		問4	マーク式	やや易	内容合致の問題。文章の内容を正しく読み取って判断する。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

まず漢文の基本語、基本句形を習得する。書き下し文の問題では、傍線部は白文で出題されるので、漢文の語順に習熟するとともに返り点や送り仮名を正しく付けられる力を身につけることが必要。本文全体の内容が試されるので、多くの文章に触れて読解力を養成することも必要である。二百字前後の文章が出題されるので、長文に慣れておくこと。